

WEEKLY SIGNAL

平成30年10月26日(金) 1447号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想					
	10/29(月)	10/30(火)	10/31(水)	11/1(木)	11/2(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	+ 200	△1,000	ト ン	ト ン	△1,000
財政他	△2,800	△1,000	+ 1,000	△21,000	△28,000
資金需給	△2,600	△2,000	+ 1,000	△21,000	△29,000
主な要因	国庫短期証券 発行・償還(3M)			国債発行(2年)	法人税・消費税・保険揚げ 国債発行(10年) 交付税特会借入・償還
オペ期日	CP等買入 △100 社債等買入 △100 共通担保(全) △1,800 国債補充 + 1,300				
オペスタート	国債買入 + 11,100 共通担保(全) + 2,100 TEF買入 + 600		CP等買入 + 2,000		
(日本)		金融政策決定会合(31日まで) 完全失業率(9月)	金融政策決定会合、結果公表 展望リポート公表 黒田日銀総裁、定例会見 日銀による当面の長期国債等の 買入れの運営について		マネタリーベース(10月) 日銀営業毎旬報告(10月31日現在)
(海外)	米 シカゴ連銀総裁、講演	米 消費者信頼感指数(10月) 欧 ユーロ圏消費者信頼感 (10月、改定値) 欧 7-9月期のユーロ圏GDP(速報値)	米 ADP雇用統計(10月) 欧 ユーロ圏失業率(9月) 欧 ユーロ圏CPI(10月、速報値)	米 新規失業保険申請件数 (27日終了週) 米 ISM製造業景況指数(10月)	米 雇用統計(10月) 米 製造業受注(9月) 欧 ユーロ圏製造業PMI(10月、改定値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.035 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初、395兆1,300億円から始まった。その後、財政等要因から394兆円台となったものの、国庫短期証券・国債買入れオペを主因に微増となり、週末には395兆4,700億円となった。無担保コールON物は、先週に引き続き軟調な地合となり、同加重平均金利は△0.071～△0.069%で推移した。一方、24日においては、一部市場参加者による試取りが実施されたことを受け、同金利は△0.057%まで上昇した(同日の無担保コール市場残高は、2008年12月18日以来、約9年10か月ぶりに10兆円を突破した)。ターム物は1W～2W物を中心に、△0.040～△0.030%の水準で出合いがみられた。26日に総務省が発表した10月の東京都都区消費者物価指数(生鮮食品を除くコアCPI)は101.3となり、前年同月比1.0%上昇した。同指数の上昇は16か月連続となった。来週の主な予定は、国内では金融政策決定会合(30、31日)や、日銀による「当面の長期国債等の買入れの運営について」の公表(31日)などがあり、海外では7～9月期のユーロ圏GDP速報値(30日)や、米10月雇用統計(2日)などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.380 ~ △0.280
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

＜C P＞

今週の入れ発行総額は約7,600億円で、週間償還額(3,200億円)から増加した。発行市場は、5・10日発行や月末発行の前倒しもあって活況となった。発行レートは、引き続きディーラーの購入ニーズが強く、マイナスから0%近辺のレンジとなっている。週末の発行市場残高は18兆3千億円程度となり、先週末比2,000億円強の増加となった(先週末残：18兆967億円)。26日にオファーされたCP等買入オペは、按分レート△0.002%、平均落札レート0.002%と前回比(按分落札レート△0.004%、平均落札レート△0.001%)上昇した。来週の償還総額は、月末日の償還(約1兆1,400億円)を含み1兆4,500億円程度となっている。月末日スタート等で、幅広い業態からの発行が見込まれるため、活況なマーケットを予想する。発行レートは、引き続きマイナス～0%近辺での出合いが中心と思われるが、発行額や発行頻度の高い銘柄では0%以上の出合いも見られる

＜T D B＞

26日入札の3M792回債は最高落札レート△0.2958%(前回債△0.2772%)、平均落札レート△0.3211%(同△0.2966%)と前回から小幅利回りが低下した。週末のセカンダリー市場は、3Mが△0.323%程度と入札水準の出合、6M・1Yは目立った出合は見られなかった。来週は11月2日に3Mの入札が予定されている。

＜レボ＞

銘柄先決めGC取引は週初△0.13%近辺から始まり、週央以降△0.145%～△0.16%に低下。短国3Mの発行日となる29日受渡しは、△0.155%～△0.16%から出合いが付き始めたが、△0.13%近辺まで上昇した。SC取引では、10年351回債、352回債のbid が多く、週初△0.10%台半ば～後半。国債買入オペがオファーされた29日受渡しは、共に△0.20%台半ば～後半の出合いが見られた。その他2年391・392・393回債、5年135・136回債、10年340・341・342・344・345・346・347・349・350回債、20年163・164・165回債、30年58・59回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。